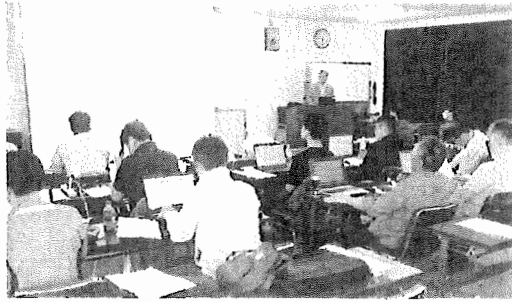


# UAV対応の利点学ぶ

## 日測協 サーベイヤカデミー



Vについて知識を深化させた。

はじめに、瀬戸島政博顧問が講習会のねらいについて説明。安全な測量調査の実施と迅速な成果提供が求められる自然災害の発生直後において、低空から高解像度で被害状況が把握できる点などのメリットを挙げ「非常に着目点のあるものと思う」と述べた。

【網走発】日本測量協会北海道支部（橋本幸支部長）は5月28日、網走建設会館でサーベイヤカデミー「UAV取得データを用いた災害地の計測と調査」を開催した。16人が受講し、講習を通じてUAV

その後講習に移行し、UAVを用いた対応のメリットや災害時の撮影ポイント、取得データを用いた災害地の計測・クラウド処理などについて情報を提供。その中で瀬戸島顧問は「天災は忘れた頃にやってくる

という言葉があるが、今は大きな被災を受けて復旧する時間がないまま災害が発

生し、負のスパイラルが発生している」と現状について話した。

このあと、日本測量協会認定講師の有木峻将氏、村木広和氏がそれぞれ「UAVを用いた災害時の撮影のポイント・留意点」「UAV

V取得データを用いた災害地の計測とクラウド処理」「UAVによる災害時の計測調査事例」などと題して解説した。

参加者は資料を読みつつ真剣に講習を聞き、UAVについて知識を深めた。